

令和 8 年度
玉村町国際教育特区
フェリーチェ玉村国際小学校
学校評価結果表
E 票

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

I 法令事項に関すること

表 題	適○ 否×	備考
1 学級編制に関すること *1学級の児童数 *学年の編制	○	
2 教科用図書の無償給与に関すること *教科用図書の無償給与	○	
3 学校保健と学校安全に関すること *定期健康診断の実施 *疾病の予防措置や管理指導 *環境衛生検査 *学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の配置 *学校保健計画 *学校安全計画 *危険等発生時対処要領	○	
4 教育課程及び教材に関すること *学期及び休業日 *教育課程の編成 *教科用図書の使用状況	○	
5 校務分掌に関すること *校務分掌の仕組み	○	
6 学校評価に関すること *法に基づいた学校評価の実施	○	
7 教職員に関すること *校長、教諭、養護教諭(看護師)及び事務職員の配置 *免許状 *校長の資格 *教諭の配置状況	○	

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

I 法令事項に関すること

表 題.	適○ 否×	備考
8 学校設置会社の業務及び財産の状況の公開に関すること * 業務及び財産の状況の閲覧にかかる準備	○	
9 いじめ防止に関すること * 学校いじめ防止基本方針の策定 * いじめ防止等対策のための組織の設置	○	
10 表簿に関すること * 学校に備えておくべき表簿	○	

Ⅱ 教育内容等**【評価基準】****評価A 「優れた取組が行われている」**

特色ある優れた取組が行われ、教育効果を上げている。

または今後、教育効果が期待される。

評価B 「適切な取組が行われている」

適切な取組が行われ、通常求められる学校運営が実施されている。

評価C 「取組の改善が求められる」

取組に課題があり、早急に改善が求められる。

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 11		教育課程に関すること	
No.	評 価 項 目		評 定
1	学校の教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間の共通理解に努めているか。		A
2	児童の学力・体力の状況を把握し、それを指導に活かそうと努めているか。		B
3	体験活動、学校行事などの実施にあたり、どのように取り組んでいるのか。適切な指導・管理体制の下に実施されているか。		B
4	各教科の年間指導計画が、学習指導要領に則り作成されているか。		B
総 評	教育課程特例校を申請することで英語教育の充実を図り、日本の教科書に加えて独自の英語教科書を活用するなど特色を出した教育課程が編成されている。また、児童の安全確保を最優先に考え、体育授業におけるチーム・ティーチング(TT)の導入や必要に応じた日本語の併用など、きめ細かな危機管理体制が構築されている。さらに、毎日のミーティングを効果的に機能させることで、学習指導のみならず生徒指導における教職員間の共通理解が緊密に図られており、学校組織が一丸となった質の高い教育活動が展開されている。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 12		学習指導に関すること	
No.	評 価 項 目		評 定
1	学習指導要領に則り、児童の発達段階に即した指導がなされているか。		B
2	体験的な学習や問題解決的な学習および、児童の興味関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われるよう努めているか。		A
3	学級内における児童の様子把握や、学習に適した環境の整備など、学級経営が適切に行われているか。		B
4	各教科で教科書とともに使用される英語版の資料は、学習指導要領に則った適切なものか。		B
総 評	児童の興味・関心を引く体験的・問題解決的な学習が効果的に行われている。英語によるプログラミング教育という独自の特色を展開する一方で、宿題の量を児童に寄り添い調整し、英語へのプレッシャーを和らげる授業実践に努めている。児童の心理的負担を軽減しつつ、自主的な学習意欲を育む優れた指導体制が整っている。一方、体育の単元一覧表において表現活動の記載が少ない傾向が見られるため、学習指導要領に基づいた各領域のバランス良いカリキュラム編成に向け、計画の再確認と明記が進むことを望む。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 13		児童指導に関すること	
No.	評 価 項 目		評 定
1	全職員が児童指導に取り組めるように、体制が整備されているか。		A
2	保護者や地域社会、関係機関等と連携協力が図られているか。		B
3	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるよう、適切な指導に努めているか。		B
4	保護者と連携・協力して、基本的な生活習慣が身につけられるよう努めているか。		B
5	学校生活全体を通し、豊かな人間関係づくりに努めているか。		B
6	命の大切さや環境の保全、社会の一員としての意識(公平・公正、勤労、奉仕、公共心、公聴心や情報モラル等)や、規範意識の向上に努めているか。		B
7	いじめ防止基本方針に基づいた取組が計画的に行われているか。		C
総 評	児童指導体制は、ブロック担任制の導入による多角的な児童理解や、「なかよしアンケート」の活用によるトラブルの未然防止など、組織的な予防策が機能している。また、防犯カメラの設置による安全確保に加え、毎日の朝・放課後の打合せを通じて全職員で即座に情報を共有する仕組みは、迅速な児童状況の把握において極めて有効な取り組みとして挙げられる。一方で、事案発生時における生徒指導窓口のさらなる明確化が今後の課題であると感じる。特に、いじめ認知に関する定義や理解度の一層の向上は、初期対応の遅れを防ぐために不可欠である。今後はこれらの課題解決に向けた校内体制を速やかに整備し、全職員の共通理解のもとで、より強固な安心・安全の教育環境を構築されることを期待する。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 14		教職員研修に関すること	
No.	評 価 項 目		評 定
1	校内、校外における研究・研修等を通じて教職員の資質・能力向上についての取り組みがなされているか。		A
2	教職員の自主的な研究・研修等についての支援体制が整っているか。		B
総 評	教職員の資質・能力向上への取り組みは、新たな学校運営体制の構築に向けて組織的かつ計画的に実践されている。特に「ブロック担任制」の導入にあたっては、職員会議や校内研修を何度も重ね、全職員による徹底した議論が行われ、その結果、生徒指導における多角的な視点の確保や、成績処理の効率化といった具体的なメリットが全体に深く共有され、新体制へのスムーズな移行と指導力のボトムアップにつながっている。一方で、教職員としての倫理観や法的責任を再確認する「服務規律に関する研修」が不足している点は、早急に改善すべき重要な課題である。今後は、ブロック担任制の定着に向けた実務的な研修を継続しつつ、服務規律に関する事例研究や校内研修を定期的実施してほしい。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 15		学校保健に関すること	
No.	評 価 項 目	評 定	
1	定期健康診断等の結果が適切な管理の下、必要に応じ迅速に取り出せる状況にあるか。また、児童の健康状態の把握等が適正に行われる状況であるか。	B	
2	スポーツ振興センター災害共済給付への加入等学校管理下での災害に対応する環境が整っているか。	B	
3	怪我、病気、アレルギー等の児童の緊急時に適切な対応をするため、マニュアル等を作成しているか。	A	
4	感染症の予防に対し、学校保健安全法に基づく出席停止等の適切な対応ができる体制が整っているか。	B	
5	環境衛生における緊急時(異物混入、化学物質の発生等)の検査体制が担保されているか。	B	
総 評	学校保健の取り組みは、児童の生命と安全を最優先に考えた組織的な危機管理体制が構築されている。特に、近年重要性が増している「アレルギー対応」や「熱中症予防」において、具体的な対応マニュアルを早期に作成・整備し、日々の教育活動の中で実効性をもって運用されている点は、児童の安全確保を担保する上で極めて有効な取り組みである。一方で、健康診断等に基づく「要治療者への受診勧奨」において、保護者への丁寧な周知や、病院受診通知の回収・提出率の低さに課題が残されている。今後は、計画されている「通知のデジタル化」を速やかに推進することを期待する。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 16		学校安全に関すること
No.	評 価 項 目	評 定
1	児童の通学方法・通学経路について、どのように確認を行っているか。	B
2	登下校時の児童の安全対策として、どのような取組を行っているか。	A
3	災害発生時や事件発生時等、緊急時の登下校の安全対策を、どのように講じているか。	A
4	遠距離通学者(電車による通学等)に対して、特別な安全対策を講じているか。	B
5	交通安全や災害発生時の安全に関する指導(避難訓練、交通安全教育等)が適切に行われているか。	B
6	学校施設・設備について安全点検が適切に行われているか。	B
7	災害発生時や事件発生時等における児童の安全確保の対策及び危険発生時に対処するための職員の訓練等をどのように講じているか。	B
総 評	広範な通学区域という特性を的確に捉え、児童の安全確保と近隣環境への配慮を両立させた実効性の高い交通安全対策が講じられている。多くの児童が自動車で登校する中、車両のダッシュボードに専用用紙を提示させて保護者を識別・確認するシステムは、不審者の校内侵入を防ぎ、確実な送迎を行う上で極めて優れた防犯・安全対策である。また、下校時に車両が集中することによる周辺道路の混雑や事故リスクを回避するため、学年ごとに下校時間をずらす工夫は、児童の安全のみならず、地域社会への多大な配慮と調和を示す取り組みとして評価できる。今後は、これらの優れた交通安全・防犯体制を継続しつつ、災害発生時における校内の物理的な安全対策の強化が必要である。その一環として計画されている「避難はしごの活用に関する実技研修」を速やかに実施し、全教職員が有事の際にも迅速かつ的確に児童を誘導できる避難技能を習得することを望む。	

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 17		学校評価の実施状況に関すること	
No.	評 価 項 目	評 定	
1	学校評価の項目は適切か。	B	
2	学校評価が年に1回以上定期的に実施されているか。	B	
3	学校評価の結果を、翌年度の指導目標等の改善に活用しているか。	B	
4	アンケート等を実施し、学校評価を行う上での参考としているか。	B	
5	学校評価の結果を保護者等に公開しているか。	B	
総 評	学校評価の取り組みは、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を意識した継続的な学校運営と、透明性の高い情報発信が行われている。学校評価を年2回という定期的なサイクルで確実に実施していることは、教育活動や学校運営の課題を適時に把握し、迅速な改善へとつなげる上で極めて有効な手法である。さらに、3学期にはその結果を外部へ公表している点は、保護者や地域社会に対する説明責任を果たすとともに、学校への信頼性を高める上で重要な取り組みである。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 18		情報公開・個人情報の保護に関すること	
No.	評 価 項 目	評 定	
1	学校に関する情報について、学校便りや学級便りの発行などをおして、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。	B	
2	情報公開手段として、ホームページを活用するなどの工夫がなされているか。	B	
3	「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」(文部科学省告示第161号)を参考に、児童等の個人情報の保護に配慮しているか。	A	
4			
5			
6			
7			
総 評	個人情報の保護と情報管理への取り組みは、児童の権利擁護とリスク管理の双方において、きわめて丁寧かつ組織的に実践されている。新年度が始まる4月の時点における基本確認に留まらず、各行事の実施ごとに、保護者へ個人情報の使用に関する承諾・確認を徹底している点は、保護者の安心感を高め、信頼関係を構築する上で大変模範的な運用のあり方であると感じる。管理側の安全対策だけでなく、指導対象である児童自身に対して情報モラルの向上や情報リテラシーに関する指導を日頃から行っている点も重要である。今後は、デジタル化のさらなる進展に伴う新たなリスクにも柔軟に対応できるよう、家庭と密に連携しながら、継続して安全で先進的な情報教育と適切な情報管理を両立されることを期待する。		

令和8年度《玉村町国際教育特区》フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表

令和8年7月 玉村町作成

表 題 19		構造改革特別区域計画に関すること
No.	評 価 項 目	評 定
1	英語による授業に児童が対応できるよう配慮がなされるとともに、児童の実態に応じて適切に指導が行われているか。	A
2	特区計画における英語科の設置及び英語イマージョン教育を実践するための指導計画が作成されており、それに基づく指導が行われているか。	B
3	児童の英語に関する到達度を計画的に把握するとともに、指導と評価が一体化した授業が行われているか。	A
4	特区内の資源(自然・歴史・インフラ・住民等)を有効に活用できているか。	B
5	教育活動を通して特区内的における経済的・社会的効果が認められるか(学校運営による経済的効果・住民の心理等への効果)。	B
6	企画部門や教育部門等で連携し、特区計画どおりに事業実施ができているか(特区計画の実現性、自治体との連携)。	B
7		
総 評	児童の学習実態を適時に把握し、柔軟かつ効果的な教育課程の改善に結びつけている。児童の読み取りの力における課題を分析し、英語の使用教科書を実態に即したものに変更したことは、特区の柔軟性を生かした適切な措置であると感じる。この際、日本の検定教科書も併用することで、国内の教育水準を担保しつつ、特区独自の高度な英語教育を実践している。さらに、入学後の児童が学校生活にスムーズに適応できるよう、英語の補充学習に注力し、安心感を持って学べる環境作りを徹底している点も優れている。今後は、この教科書変更と補充学習の成果を定期的に検証・分析し、児童の読み取り能力の向上にどれほど寄与したかを明確にし、特区推進校として、さらなる指導法の開発と児童の確かな学力向上に繋げることを期待する。	

令和8年度 《玉村町国際教育特区》 フェリーチェ玉村国際小学校学校評価結果表
--

令和8年7月 玉村町作成

Ⅲ 経営に関すること

評 価 結 果

- ・令和8年3月期決算は、前期から売上高、営業利益とも増加したが、営業外費用の支払利息割引料の増加及び特別損失の新校舎臨時費用の発生により減益となった。
- ・各学年が完全2クラスとなり、教職員などの人員や、教室や施設なども含め体制・制度は完成形に近いと思われる。今年度は、こども園からの園内選抜の取り組みにより、定員数40名を確保することが出来た。引き続き定員数の確保に取り組まれない。
- ・キャッシュフロー管理で見たように、営業CFは3期連続で黒字である。計画的な売上が見込め、新たな投資CFは当面発生しないため、内部留保が進む計画となっている。
- ・会社の目標である学校法人化の要件を満たす財政基盤の確立には、長期間を要する。現在は借入比率が高くて自己資本率が低い状態であるが、時間はかかるものの財務の安全性が高まる流れは確立している。